

平成 29 年度「つながる食育推進事業」成果報告書

受託者名	山形県教育委員会
モデル校名称	川西町立小松小学校
対象学年及び人数	全学年、256人
栄養教諭等の配置	平成23年度から栄養教諭が1人配置（ただし、平成29年度は学校栄養士が配置のため、近隣中学校の栄養教諭と連携）

1 取組テーマ

学校との連携による家庭・地域における食育の意識向上と実践力の向上

(1) 家庭及び地域に対する普及啓発及び食育の意識向上

- 「食育だより」家庭版及び地域版を配付し、家庭及び地域に対する普及啓発を図り食育の意識向上を図る。
- 地域内に「食育のぼり」を設置し、町全体で食育を推進する機運を醸成する。

(2) 児童及び保護者が食育への理解を深め、実践につなげる取組み

- 簡単で栄養バランスの良い「朝食レシピ」を親子で考え、実際に調理し、レシピを募集する取組みの実施により、栄養バランスのよい朝食を摂ることへの意識を向上させ、実践につなげる。
- 地元高等学校の演劇部による食育をテーマにしたミュージカルの鑑賞や、川西町の特産物「紅大豆」等の「豆」について普及啓発を行っている高校生との交流を通じて、児童が食を楽しんで学び、食への理解促進につなげる。
- PTAと連携した食育講演会の実施により、児童及び保護者の食への理解促進を図る。
- 地元高等学校等と連携し、親子で農業体験や調理体験を行うことにより、食の大切さを学び食に感謝する心を育成するほか、親子で食を楽しむ。

(3) 児童及び保護者が自らの食における課題に気づき、改善させる取組み

- 栄養教諭等と養護教諭が連携のうえ各保護者に対し成育面及び栄養面の個別相談を実施し、食や生活習慣における個々の課題に対して直接的に、かつきめ細やかな指導を行うことにより、自らの食生活習慣における課題を認識させ、改善につなげる。
- 朝食の摂取状況及び食事内容、ならびに生活状況等を記録し、振り返りを行う「生活カード」を親子で取り組むことにより、自らの朝食摂取や栄養バランス、生活習慣に気づきを与え、意識の改善を図るとともに、実践につなげる。

2 推進委員会の構成

委員	川西町立小松小学校：校長、栄養士、養護教諭、教諭（給食主任）、PTA副会長	
	川西町立川西中学校：栄養教諭	
	県立置賜農業高等学校：教諭	
	NPO法人えき・まちネットこまつ：理事長	
	山形県教育庁スポーツ保健課：食育専門員、主査	
	山形県教育庁置賜教育事務所：指導主事	
	川西町教育委員会：教育総務課長、教育総務主査、指導主事	計14人

3 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
川西町立川西中学校	取組全般において当該校栄養教諭と連携
県立置賜農業高等学校	農業体験、ミュージカル鑑賞等において連携
実践校PTA	各学年の取組みや食育講演会の実施において連携

4 取組前のモデル校の状況

◆これまでの食育の取組状況

○児童自らが食に関心を持ち、望ましい食習慣を形成するとともに、食を通じて人間関係形成能力の育成が図られるよう、食に関する指導を行ってきた。

(例) 栄養と健康に係る指導

正しい食事マナーに係る指導

地産地消給食など、食に感謝する心を育成する指導

郷土料理の提供など、食文化の理解促進を図る指導

ふれあい給食やおたのしみ献立など、食を楽しみ、好ましい人間関係を育てるための指導

○指導にあたっては、栄養教諭を中心に、担任等とも連携しながら、給食の時間のほか教科や総合的な学習の時間など、学校教育全体を通して指導を行った。

○県の取組みである「心を育む学校給食週間」では、「こころ」「からだ」「おこない」の視点から、郷土料理給食や調理師との交流など、様々な取組みを行ってきた。

○給食だより等を通じ、各家庭に食育について情報発信を行ってきた。

◆学校の課題

実践校の児童及び保護者は、自分の食が健康につながるという認識が低いことから、朝食欠食や栄養バランスが不十分など子どもの食生活に意識が低い家庭が見受けられる。このことから、朝食摂取を始めとした望ましい食習慣に対する保護者の理解を促進するとともに、自らバランスの良い食生活を送ることができる児童を育成する必要がある。

5 評価指標の設定について

(1) 共通指標について

- ① 児童生徒の食に関する意識に関すること
 - ア 朝食を食べることへの価値
 - イ 共食をすることへの価値
 - ウ 栄養バランスを考えた食事をとることへの価値
 - エ ゆっくりよく噛んで食べることへの価値
 - オ 食事マナーを身に付けることへの価値
 - カ 伝統的な食文化や行事食を学ぶことへの価値
 - キ 食事の際に衛生的な行動をとることへの価値
 - ② 朝食を欠食する児童生徒の割合
 - ③ 児童生徒の共食の回数
 - ④ 栄養バランスを考えた食事をとっている児童生徒の割合
- ※ 共通指標は、児童生徒アンケートによって測定する。

(2) 独自指標について

特に無し

6 実践内容（評価指標を向上させるための仮説（筋道）を含めて）

(1) 家庭及び地域に対する普及啓発及び食育の意識向上

○「食育だより：家庭版」の配付

毎月、児童のいる家庭に「食育だより：家庭版」を配付し、保護者に対して食育の普及啓発を行った。

○「食育だより：地域版」の配付

年2回、「食育だより：地域版」を町広報誌の発行に合わせて町内に全戸配付し、児童と同居していない祖父母を含めた地域全体に対して食育の普及啓発を行った。

○「食育のぼり」の作成と地域内や学校内での設置

児童の各家庭から、のぼりに掲載する食に関するキャッチコピーを募集し、優秀作品をのぼりに掲載した。作成したのぼりは、地域内に設置したほか学校内にも掲示し、家庭及び地域の意識向上につなげた。

(2) 児童及び保護者が食育への理解を深め、実践につなげる取組み

○親子で考える「朝食レシピ」の募集

3学年において、親子で考える「朝食レシピ」を募集した。見た目やおいしさ、栄養バランス等を工夫したレシピが集まり、優秀作品は「食育だより地域版」で紹介した。栄養バランスの良い朝食を摂ることへの意識向上と朝食摂取の実践につなげた。

○食育ミュージカルの鑑賞

全児童で、地元の県立置賜農業高等学校の演劇部が演じる食育をテーマにしたミュージカルを鑑賞した。児童は、身近な高校生が演じることで食の大切さを興味を持って学ぶことができ、望ましい食生活への意識を高めることができた。

○食育講演会の実施

P T Aと連携し、保護者・全児童を対象に食育講演会を実施した。町内の農業組合法人代表から、食の大切さや、農業体験など体験することの大切さ等について講演いただき、食や生産者への感謝の心が育まれた。

○郷土料理の親子調理体験の実施

前項の食育講演会の講師からいただいた大豆を活用し、食生活改善推進員の方を講師に、4学年の親子で伝統的な保存食「打ち豆」を自作し、郷土料理を作り一緒に食した。親子で調理をして食を楽しむことができたほか、郷土料理や地産地消への理解を深めることができた。

○親子農業体験及び調理体験の実施

地元の県立置賜農業高等学校と連携し、5学年の親子で農業体験を実施した。稲刈りを親子で鎌を使い行ったほか、児童はコンバインでの収穫も体験した。体験後、本県の郷土料理である「芋煮」と地元産米「雪若丸」を使ったおにぎりを親子で作って一緒に食した。農業体験及び調理体験を通じ、親子で食を楽しむことができたほか、食の大切さを学び、食べ物に感謝する心の育成が図られた。

○地元特産物「紅大豆」等への理解促進

地元の県立置賜農業高等学校の生徒で、川西町の特産物「紅大豆」等の「豆」について普及啓発を図る活動を行っている「豆ガールズ」と4学年児童が交流し、「豆」について楽しく学び、郷土料理や地産地消への理解を深めた。

(3) 児童及び保護者が自らの食における課題に気づき、改善させる取組

○学校栄養士と養護教諭が連携した個別相談の実施

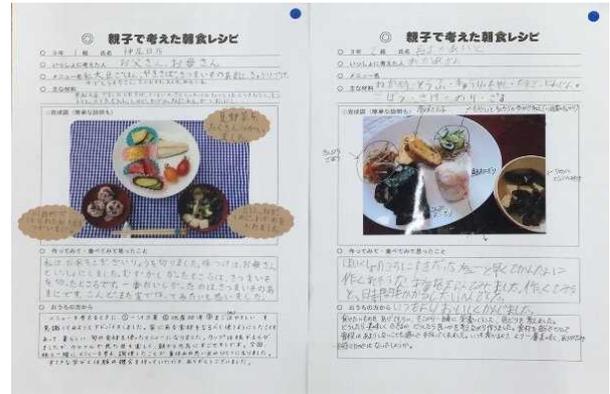
学校栄養士と養護教諭が連携し、希望する保護者に対し生育面及び栄養面の個別面談を実施した。食や生活習慣に係る個々の課題に対して、直接的に、かつきめ細やかな指導を行うことにより自らの食生活習慣における課題を認識させ、改善につなげることができた。

○「いきいき生活リズムカード」の実施

朝食の摂取状況及び食事内容、ならびに生活状況等を記録し、振り返りを行った。朝食の摂取や栄養バランス、生活習慣に係る意識の改善が図られ、実践につなげた。



食育のぼり（学校内での掲示）



親子で考える「朝食レシピ」



県立置賜農業高校生による食育ミュージカルの鑑賞



食育講演会



郷土料理の親子調理体験



県立置賜農業高校の「豆ガールズ」との交流



親子農業体験及び調理体験（調理時）



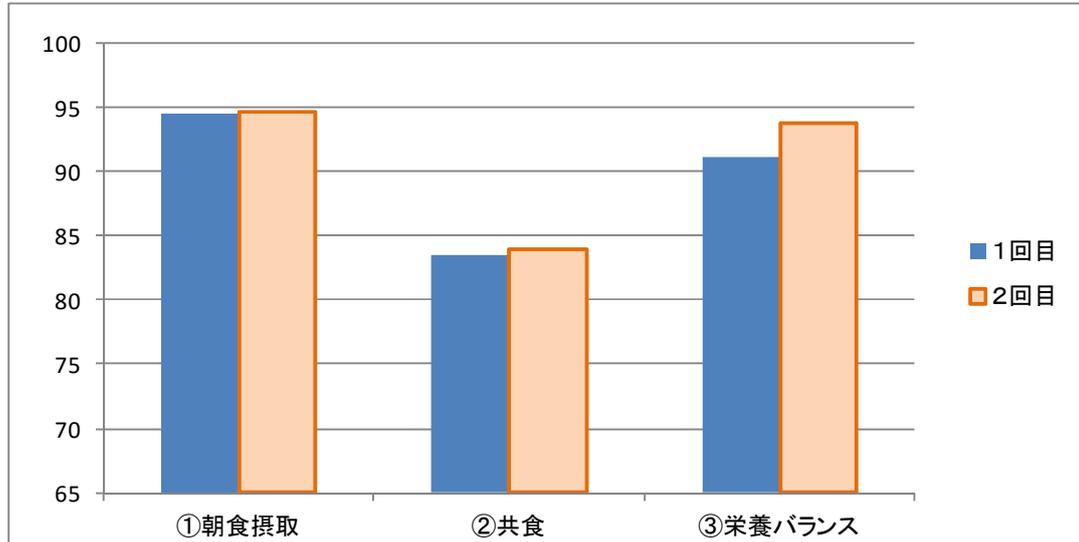
親子で調理した「芋煮」をいただきます

7 評価指標の測定結果

(1) 共通指標について

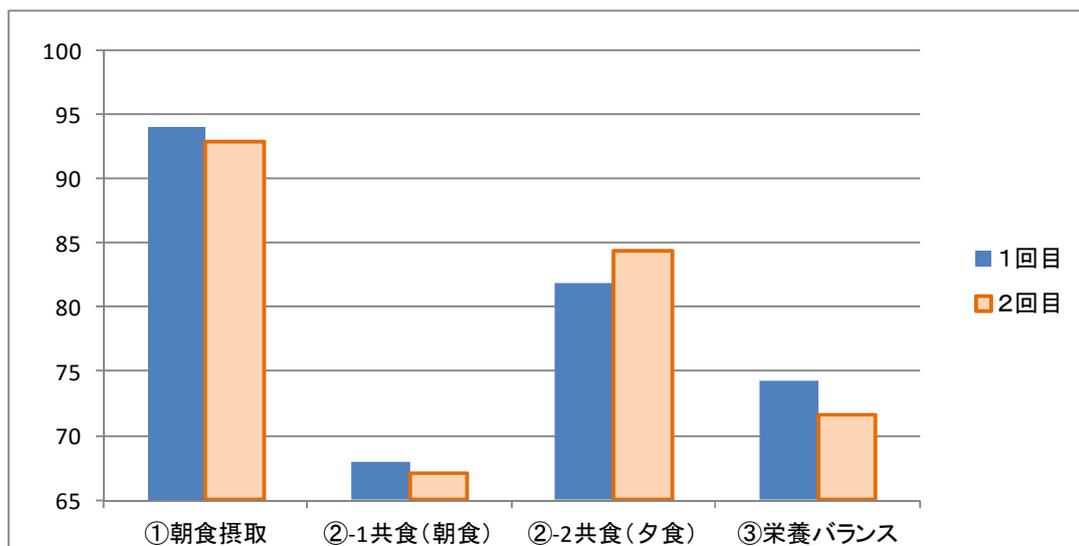
児童生徒アンケート調査結果（1回目：6月実施、2回目：12月実施）から、朝食摂取、共食、栄養バランスに係る項目を抜粋し、グラフAは意識の変化を、グラフBは行動の変化を表した。

A 児童の食に関する意識の変化



- (注) ・ A①「朝食摂取」は、アンケートの質問項目「Q1-1 朝ごはんを食べることは大切だと思うか」において「思う」と回答した割合（94.5%→94.7%）
- ・ A②「共食」は、「Q1-2 家族などと一緒に食事をとることは大切と思うか」において「思う」と回答した割合（83.5%→84.0%）
 - ・ A③「栄養バランス」は、「Q1-3 栄養バランスを考えた食事をとることは大切だと思うか」において「思う」と回答した割合（91.1%→93.8%）

B 児童の食に関する行動の変化



- (注) ・ B①「朝食摂取」は、アンケートの質問項目「Q2 朝食を毎日食べているか」において「ほとんど毎日」と回答した割合（94.1%→92.9%）
- ・ B②-1「共食(朝食)」は、「Q3 朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいあるか」において

「ほとんど毎日」と回答した割合（67.9%→67.1%）

- ・B②-2「共食（夕食）」は、「Q4 夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいあるか」において「ほとんど毎日」と回答した割合（81.9%→84.4%）
- ・B③「栄養バランス」は、Q5「主食・主菜・副菜を3つ揃えて食べることが1日2回以上あるのは、週に何回あるか」において「ほとんど毎日」と回答した割合（74.3%→71.6%）

（2）独自指標について

無し

8 成果と課題

◆成果

○食育だよりの配付、食育のぼりのキャッチコピー募集及び設置、親子で考える「朝食レシピ」の募集、食育ミュージカルの鑑賞、食育講演会の実施、「いきいき生活リズムカード」の実施などの取組みを実施したところ、「『朝食を食べることへの価値』の児童の意識」及び「『栄養バランスを考えた食事をとることへの価値』の児童の意識」に関する数値が改善した。児童の食への意識向上及び理解促進が図られ、朝食摂取やバランスのよい食事についての意識が高まった。

Q1-1「朝ごはんを食べることは大切だと思うか」思う：94.5%→94.7%

Q1-3「栄養バランスを考えた食事をとることは大切だと思うか」思う：91.1%→93.8%

○親子で考える「朝食レシピ」の募集、郷土料理の親子調理体験の実施、親子農業体験及び調理体験の実施など、親子で一緒に行う取組みを実施したところ、「『共食をすることへの価値』の児童の意識」及び「児童生徒の共食の回数」に関する数値が改善した。児童の「共食」に係る意識及び行動が高まった。

Q1-2「家族などと一緒に食事をとることは大切だと思うか」思う：83.5%→84.0%

Q4 夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいあるか」ほとんど毎日：81.9%→84.4%

○当事業の実施においては、PTAと連携し全校及び各学年の取組みを行うことができた。また、地元の農業高校や地元の農業法人、食生活改善推進員等と連携し、地域の力を活用しながら事業を進めることができた。評価指標の数値には表れていないが、当事業を通じ家庭や地域との連携が強化されたことは、今後の取組みにつながっていくという点で成果と言える。

◆課題

○「児童生徒の共食の回数」のうち「夕食を家族と一緒に食べる頻度」については改善されたが、「朝食を家族と一緒に食べる頻度」については割合が減少した。毎日の忙しさの中で家族一緒に朝食を摂ることは難しい場合もあり、課題といえる。朝食摂取の重要性と併せて、家族で朝食を摂ることも啓発していく必要がある。

Q3「朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいあるか」ほとんど毎日：67.9%→67.1%

○朝食摂取への意識及び栄養バランスを考えた食事への意識は改善したが、その行動に係る評価指標においては、数値の改善は見られなかった。朝食摂取やバランスの良い食事について理解はしているものの、行動面ではまだ不十分である児童が多いと考えられる。引き続き、食に関する様

々な取組や日常的な指導を行っていくことで、望ましい食に関する行動への意識付けを図り、より良い行動の実践につなげられるよう進めていきたい。

Q2「朝食を毎日食べているか」ほとんど毎日：94.1%→92.9%

Q5「主食・主菜・副菜を3つ揃えて食べることが1日2回以上あるのは、週に何回あるか」

ほとんど毎日：74.3%→71.6%

9 情報発信と普及の計画

◆山形県教育委員会

- 県ホームページを活用した県内外への情報発信
- 県学校食育推進会議における事例発表等による、県内市町村教育委員会及び関係団体等への情報提供
- 県立図書館での展示による情報発信

◆川西町教育委員会及び実践校

- 町ホームページを活用した町内外への情報発信
- 町広報誌等を活用した町民への情報発信
- 事業報告書の作成・配付による県内市町村教育委員会及び関係団体等への情報提供